

令和 7 年度

「運営に関する計画」

大阪市立小路小学校

令和 7 年 4 月

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】

認知したいじめについては、すぐに組織で連携し対応することができている。令和6年度の小学校学力経年調査「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して目標数値87%には達しなかったが昨年度85.6%と昨年より上回ったことは成果である。同じく経年調査において「学校に行くのが楽しいと思いますか」は、目標数値の80%には達した。同じく経年調査における児童質問紙「自分にはよいところがあると思うか」という質問に否定的な回答をする児童の割合は、減少し、どの学年も自己肯定感が向上した。不登校・不登校傾向にある児童については、教職員全体でポジティブ行動支援に取り組み、また関連機関と連携し組織的に対応することにより、改善傾向にある。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学力経年調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して肯定的な回答する児童は87%となり目標数値の85%を上回った。同じく経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度のポイントを維持することについては、6年算数以外はポイントを維持することはできなかった。また、下位層の基礎学力の向上については、7割に満たない児童の割合を同一母集団において2ポイント減少させることについては、4年の国語・算数、6年算数は達成することができたが、他は増加した。運動については最も肯定的に「好き」と答える児童の割合が目標の80%大きく上回り、90.9%となり、達成することができた。

【学びを支える教育環境の充実】

端末について児童の校内アンケートでは、全学年端末で実施した。操作するスキルの向上は成果と言える。特別支援学級はじめ各学年での活用が多様化し工夫してきた。また、仕事と生活の両立の調和を可能とする働きやすい環境を整備し、基準1の達成率は令和5年度57.1%から令和6年度は75.0%となり、目標を達成した。基準2については令和5年度の100%達成から、91.67%に減少したが、勤務時間外月45時間以内の達成率は91.67%から95.84%にのび、年々た働き方改革が進んできている。時差勤務の取り組みと会議の効率化を進めてきたが、教職員一人一人のまだ仕事量は多く、負担感は変わらず大きい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- 令和7年度末の校内調査にて不登校児童の改善の割合を令和6年度より増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を45%以上とする。

- 令和7年度小学校学力経年調査における国語および算数において大阪市の平均正答率に対する標準化得点を100とする。
- 令和7年度小学校学力経年調査における「理科の授業が好きですか」に対して、肯定的に回答する割合を87.2%以上にする。
- 令和7年度小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 令和7年度小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

授業日において、児童生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間の授業日の半数を超えた学校の割合を75%以上にする（令和7年度末）

ICTの活用に関する目標

- 令和7年度末に授業日において児童の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の95%以上にする。
- オンラインによる学習を年に2単位時間以上実施する。
- 令和7年度末の校内調査におけるICTに関する項目に8割以上「できる」と回答した児童を95%以上にする。

教職員の働き方改革に関する目標

- 令和7年度末「教員の時間外勤務時間上限基準の達成率（※基準2）」達成率を90%とする。
- ゆとりの日を週に1回設定・実施し、自己の働き方について意識する。
- 学校閉学日を年間5日以上設定する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いませんか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を87%以上にする。
- ・令和7年度末の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- ・校内調査「学校肯定感アンケート」の6項目それぞれに対して「はい」と回答する児童の割合を年度はじめよりも5ポイント増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を45%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も標準化得点100を上回るようにする。
- ・令和6年度小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの対象学年も前年度より2ポイント減少させる。

- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

【ICTの活用に関する目標を設定する】

- ・授業日において児童の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の90%以上にする。
- ・オンラインによる学習を年に2単位時間以上実施する。
- ・令和6年度末の校内調査におけるICTに関する項目に8割以上「できる」と回答した児童を90%以上にする。

【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】

- ・ゆとりの日を週に1回設定・実施し、自己の働き方について意識する。
- ・学校閉学日を年間5日以上設定する。
- ・各種アンケート調査におけるICT活用、オンライン活用を推進する。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

【学びを支える教育環境の充実】

(様式2)

大阪市立小路小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。 ・令和7年度末の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 ・校内調査「学校肯定感アンケート」の6項目それぞれに対して、「はい」と回答する児童の割合を年度はじめよりも7ポイント増加させる。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と学ぶ取組を各学期1回行うことを通じて、集団作りを深める。</p> <p>指標 校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。</p>	
<p>取組内容② 【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 子どもサポートネットなど関係諸機関との連携を密に図りながら、保護者支援も含めた総合的な対応を行う。</p> <p>指標 前年度不登校児童の改善の取組を進めていく中で、不登校児童の在籍率を前年度より減少させる。</p>	
<p>取組内容③ 【基本的な方向2、豊かな心の育成】 児童が学校に行くのが楽しいと思えるような学校を目指す。そのために、児童にとって居心地が良い学校と感じられるようにポジティブ行動支援を教職員全体で取り組む。</p> <p>指標 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的</p>	

に回答する児童の割合を90%以上にする。

取組内容④【**基本的な方向2、豊かな心の育成**】

全学年で「3つの花」（やる気、きまり、つながり）をたくさん咲かせるために、各委員会で強調週間を設け、児童の肯定感を高められるようにする。

指標

校内調査における『学校肯定感アンケート』の6項目それぞれに対して、「はい」と回答する児童の割合を年度はじめよりも7ポイント増加させる。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

後期への改善点

(様式2)

大阪市立小路小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none">・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を45%以上にする。・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も標準化得点100を上回るようにする。・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を80%以上にする。・令和7年度小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの対象学年も前年度より2ポイント減少させる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>朝の会や帰りの会でスピーチをしたり、学習の中で話し合う活動を積極的に取り入れたりすることで、自分の考えや思いを整理して伝える力の向上に努める。そのための具体的な取り組み方を職員間で学び合う。</p>	
<p>指標</p> <p><u>校内調査</u>における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、3年生以上の<u>肯定的に回答する児童の割合</u>を85%以上にする。</p>	
<p>取組内容② 【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>朝の学習や放課後学習、スキルアップテストにおいて、基礎的な学力の向上を図る。</p>	
<p>指標</p> <p>国語科では、プリント学習やnavimaでの学習以外に、音読と視写にそれぞれ月1回以上取り組む。算数科では、週1回のスキルアップテストに<u>7枚以上合格した児童の割合</u>を70%以上にする。</p>	
<p>取組内容③ 【基本的な方向 5、健やかな体の育成】</p> <p>運動・環境委員会が中心となって、休み時間の遊びを企画・運営する。</p>	
<p>指標</p> <p><u>校内調査</u>における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、<u>肯定的に回答する児童の割合</u>を80%以上にする。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
後期への改善点	

(様式 2)

大阪市立小路小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>【ICTの活用に関する目標を設定する】</p> <ul style="list-style-type: none">授業日において児童の 8 割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の 90% 以上にする。オンラインによる学習を年に 2 単位時間以上実施する。令和 7 年度末の校内調査における ICT に関する項目に 8 割以上「できる」と回答した児童を 95 % 以上にする。 <p>【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】</p> <ul style="list-style-type: none">ゆとりの日を週に 1 回設定・実施し、自己の働き方について意識する。学校閉庁日を年間 5 日以上設定する。各種アンケート調査における ICT 活用、オンライン活用を推進する。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【基本的な方向 6、教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 ICT 支援員を活用し、週 1 回以上学習者用端末を使った学習をする。	
指標 校内調査における「ICT 活用能力チェック」に対して、設問に対して 8 割以上「できる」と回答する児童の割合を 95 % 以上にする。	
取組内容② 【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 健康障害防止機能確認日を設ける。	
指標 月末に 1 回、健康障害防止機能確認日を設け、一人一人が自己の働き方を確認する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
改善点	

